

高知市では、1995（平成7）年12月に「みんなが輝く自由のまち高知」の実現をめざし、「'95高知市文化振興ビジョン」を策定しました。

このビジョンの期間中には、行政と市民・企業等が協働して施策の推進に取り組み、市民の文化創造と生涯学習の拠点施設となる「高知市文化プラザかるぼーと」の整備や都市景観に配慮したまちづくりなど、一定の成果を挙げることができました。

2011（平成23）年4月に2011高知市総合計画を策定したことを契機として、2012（平成24）年4月には、「みんなで育む文化の力」を基本理念として掲げ、新たな「高知市文化振興ビジョン」を策定しました。

この第2次のビジョンでは、「芸術」「歴史」「食」「まんが」「高知らしさ」の5つの領域から、それぞれの領域における文化の継承や発展に、文化の担い手となる市民や地域、学校、NPOなどと共に取り組んできました。

以来、この10年の間に、デジタル技術はさらに急速に進展し、ヒト・モノ・カネ・情報の一層のグローバル化により、個人のライフスタイルの変化、価値観やニーズの多様化などを含めた大きな社会の変化を生み出しました。

一方で、日本全体の課題である人口減少と少子高齢化に対しては、国を挙げて様々な対策をとっているものの決定的な効果を上げるには至っておらず、地方から都市部への若者の流出は依然として深刻な状況を脱していません。

しかし、技術革新による働き方の変化や個人の価値観の多様化によって、都市部から地方への移住も増えてきており、新しい人の流れが生まれるなどの動きも注目されます。

このような状況下で起こった新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、地球規模で、歴史的ともいえる変化をわたしたちの生活にもたらしました。感染拡大防止のために人の往来や直接の交流が制限され、「新しい生活様式」や「リモート」など、従来のコミュニケーションの根幹を覆すような対応を強いられました。

こうした中、様々な試行錯誤がなされ、デジタル技術を活用した遠隔地の人との交流や舞台芸術のオンライン配信などの新しい取組が生まれるとともに、生の芸術に触れることのすばらしさ、顔を合わせて交流し、ともに何かを作り上げることの大切さも改めて認識されるなど、文化の意味、文化の在り方、文化の果たす役割を見つめなおす機会となりました。世界的なコロナ禍の影響で生まれた新たな流れを取り込みながら、さらに多様に文化は変化していくと考えられます。

また、持続可能でより良い世界を目指す国際目標としてSDGs<sup>\*</sup>が提唱され、誰一人取り残さない社会の実現のために、貧困や人権、経済、環境など広範な課題に世界が取り組んでいます。その動きは、今後の文化の在り方にも影響を与えていくものと思われます。

先人が積み重ねてきた高知の文化を土台としつつ、社会の変化に対応しながら新しい文化の創造に向かっていくために、前ビジョンの基本的な考え方や文化振興に取り組む主な領域を継承し、それぞれの領域における取組を強化し、文化施策をより一層効果的に展開していくために、このビジョンを策定します。

「高知市文化振興ビジョンの変遷」

- 1995（平成7）年 高知市文化振興ビジョン  
～みんなが輝く自由のまち高知～策定
- 2012（平成24）年 高知市文化振興ビジョン  
～みんなで育む文化の力～策定
- 2018（平成30）年 同改訂版策定
- 2022（令和4）年 2022高知市文化振興ビジョン  
～みんなで育む文化の力～策定

